



車両検修部門で働く労働者の働きがい奪う施策にはさせない!

東日本ユニオンは2月16日申13号「新潟支社における運輸車両部門の組織再編について」に対する第二次申し入れ（車両職場再編・検修業務関係） 団体交渉を行いました。施策実施まで1ヶ月前に迫る中で会社の考えを質しました。

1. 新潟車両センターにおいて車両職の全てを学ぶことが可能な方法を具体的に明らかにすること。

回答. 必要な教育は実施していく考えである。

・新人は現行どおり。他の社員は全車種が望ましいが技術管理もあり、車種によって人数が決まっているので、区所で技能マップに基づいて進めていく。スケジュールについて示せるものはない。

2. 車両職の新入社員や転入者教育、車種転換教育はどこで行うのか明らかにすること。

回答. 関係箇所に必要な教育は実施していく考えである。

・全体像を見ながら。例えばGVとE129系のように車種間のハードルが低いものは多くの人が学べるが、DL・EL・SLは専門性が高い車種なので、最低限必要な人員で進めて行く。

3. 各職場の安全作業要領等の教育をどのようなスケジュールで進めるのか明らかにすること。

回答. 必要な教育は実施していく考えである。

・3月18日に集約することではない。各区所で安全に作業できることが第一、必要な教育をやっていく。ルール統合が理想だが、各区所のものを統合・包含し新潟車両センターの要領とする。現在長岡車両センターで定めているルールを長岡営業統括センターのルールとして定める。長岡車両センターのルールを長岡営業統括センターが確認して、長岡営業統括センターのルールとして適用する。新津は新津のルールを適用していく。新津運輸区の名前で要領は適用できないので書き換えていく。

4. 各職場で発行されている作業指示書・業務連絡はどのようなスケジュールで周知を行うのか明らかにすること。

回答. 引き続き、必要な周知は行っていく考えである。

・3月18日時点ではこれまでの箇所・車種の人が担当していくことになる。

5. 各社員の安全靴、手袋、デスコ棒の管理、保護具の耐圧試験は誰がどのように行うのか明らかにすること。

回答. 保護具等の管理及び耐圧試験については、関係箇所に対応していく考えである。

・保護具等の管理は新潟車両センターで管理する。遠隔地の道具管理は課題である。

6. 施策実施以降マザーベースはどの総合車両センターになるか明らかにすること。

回答. マザーベースは現行どおりで考えている。

・新潟車両センターの新人教育マザーベースは大宮総合車両センター、新津は郡山、長岡は秋田。

【新潟車両センター関係】

7. 新潟車両センターにおける総務G、設備G、技術G、計画G、新車G、輸送G、検修Gの各要員及び具体的業務内容について明らかにすること。

回答. 新潟車両センターにおける各グループの業務等については、提案資料等に記載したとおりである。

・一般49は平均的な出面数であり、日々のオペレーションではない。3月18日時点では必要な人員数はもつという。新津派出も含まれており人事異動が決まらないと具体的に示すことができない。

8. 機関車、気動車、及び新動力車GVについて以下の項目を明らかにすること(1)留置箇所(2)運用管理担当者(3)品質保証管理担当者(4)契約担当(5)タイヤ管理(6)入出場管理担当(7)仕業発注箇所(8)ATS 管理担当(9)圧力計管理担当(10)故障発生時の速報発行(11)月保全及び年保全の施工場所(12)搭載品管理担当(13)予備品、消耗品等資材管理担当(14)周期管理及び運用時の燃料管理担当(15)仕様変更など文書に関わる担当(16)列車キロ等車両管理システムへの入力担当者

回答. 車両留置箇所については、車両運用行路表で示しているところである。また、各業務については、関係箇所に対応していく考えである。

・口頭補足(1)は回答のとおり(2)は輸送G(3)は技術G(4)は総務G(5)は計画G(6)は計画Gと輸送G、(7)新潟車両センター。気動車は新潟派出もある。(8)(9)計画G(10)技術G(11)新潟車両センター(12)計画G(13)基本総務G。新潟に保護具業務もある(14)輸送G、新潟は検修当直(15)技術G(16)計画G。

【新潟運輸区関係】

9. 新潟派出における輸送G、検修Gの要員及び具体的業務内容について明らかにすること。

回答. 新潟車両センターにおける各グループの業務等については、提案資料等に記載したとおりである。

・110系の交番検査はJR3名。上回り検査工事、付帯検査工事はNTSへの業務委託。

10.DCのA行路が夜間乱れた場合誰が運用変更に伴う対応を行うのか明らかにすること。

回答. 関係箇所にて対応することとなる。

・運用管理、検査周期管理は新潟車両センターだが、新潟口の車両の送配は新潟派出の検修当直でやる。

11. SLの社員養成について施策実施以降の考えを明らかにすること。

回答. 必要な社員養成は行っていく考えである。

・少ない人数で回しているので、注油などを行う添乗社員を増やしていくことはある。波動で対応する。

【長岡車両センター関係】

12. 長岡車両センターにおいて残存する車両検修設備の管理は施策実施以降どのように行っていくのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センターが担っている車両検修設備の管理については、新潟車両センターで行うこととなる。

・今ある検修設備はそのまま残し、管理は設備G。建屋などは一時的に設備Gとして変更する場合もある。

13. 石打車庫や十日町車庫は施策実施以降どのように管理していくのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センターが担っている石打駅構内及び十日町駅構内の車両検修設備の管理については、新潟車両センターが行うこととなる。

・仕業検査施行は年数回。断路器の草刈りは長岡車両センターが行っている。断路器は車両検修設備ではないが、検査には必要な設備なので新潟車両センターで引き継ぐ。石打糞害対応は運輸区対応も検討する。

14. 長岡車両センターで車両故障が発生した場合の対応を明らかにすること。

回答. 長岡車両センター構内で車両故障が発生した場合は、引き続き関係箇所に対応することとなる。

・新潟車両センター社員到着後PRCに作業申込、打ち合わせ後必要であれば安全教育を行う。教育方法は、①長岡駅PRCが実施②オンラインで自区所の管理者が実施③出発前に自区所で実施となる。長岡駅PRC社員に検修業務に経験があっても営業統括センター所属なので分けて考える必要がある。

・新潟車両センター社員で長岡近辺在住者であっても、一度新潟車両センターに出勤し保護具など携帯した上で出勤するのがルールである。

15. Shu*Kuraの保全・臨時修繕はどこで、誰が行うのか明らかにすること。

回答. Shu*Kuraの保全・臨時修繕は、関係箇所に対応することとなる。

・Shu*Kuraの交番・仕業検査は新潟で行うことが基本。構内事情により派遣し長岡構内で派遣で施行する。

16. EL・DLの仕業検査をどのように行うのか明らかにすること。

回答. 仕業検査は関係箇所で行うこととなる。

・ELはNTS、DLはJR施行であり、ELは新潟車両センターの輸送GがNTS長岡作業責任者へ発注、DLは施策後もJRで実施する。

17. 長岡車両センターでの分割作業は誰が行うのか明らかにすること。

回答. パートナー会社と情報共有を行いながら実施しているところである。

・分割・併合は現行同様にNTS。臨時作業についても長岡営業統括センターからNTSに作業発注はかけられる。

18. 長岡車両センター当直が行っていた業務は施策実施後どのように行うのか以下の項目を明らかにすること

(1)点呼時における出区番線伝達(2)乗務員の起床装置管理及び設定(3)起床装置の不具合対応
(4)乗務員体調不良等対応(5)出場遅延となった場合の対応 (6)輸送障害時の乗務員タクシー便乗手配・管理 (7)急遽の運用変更による留置番線の変更、入出区時刻の伝達 (8)運用変更による入出区時刻の設定及び相互チェック(9)貨物会社の点呼(10)運転報抜粹(11)運転統計の入力(12)四半期達の抜粹及び相互チェック(13)入出区時刻の把握 (14)機関車入出区使用計画(15)機関車使用計画作成(16)機関車仕業検査の発注及び施行確認(17)機関車のハンドルと鍵の管理方法(18)保守作業事前打ち合わせ(19)保守作業に関わる照合及びチェック(20)き電停止に関わる対応(21)部外業者構内立ち入り管理(22)遺失物の取り扱い

回答. 長岡車両センター当直で行っている業務は、関係箇所に対応することとなる。

・口頭補足(1)は運輸区当直(2)起床遅延管理は長岡運輸区(3)も長岡運輸区(4)は自区当直(5)は当該乗務員の運輸区とPRC(6)は長岡運輸区(7)は自区乗務員とPRC(8)PRC(9)貨物会社(10)PRC(11)新潟車両センター(12)(13)PRC(14)(15)(16)新潟車両センター(17)ハンドルは新潟車両センター、受け渡しはPRC(18)~(21)PRC(22)PRCと長岡営業統括センター

・入出区番線変更、編成両数変更などは運用指令から運輸区当直に連絡がいく。起床装置の時刻セット確認はしない。

・機関車の鍵とハンドルの受け渡しだけはPRCで行い、点呼は自区当直、管理は新潟車両センター。

19. 長岡車両センター構内において積雪状況等の把握は誰が行うのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センター構内における積雪状況等の把握は、引き続き関係箇所に対応していく考えである。

・主はPRCが把握する。現状の長岡車両センターと同じ体制とするのは課題である。具体的に示せるものはないが、常駐者を置くこともあると思う。

20. 長岡車両センター内の駐車場及び庁舎周辺の除雪はどのような対応するのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センター構内の駐車場及び庁舎周辺の除雪は、関係箇所に対応していく考えである。

・長岡営業統括センターで対応する。駐車場利用者も減るので全箇所除雪の必要性はなくなるが、PRC社員だけでなく訓練センター講師に依頼するケースもある。

・上越線が終日運休時などは運輸区にも構内やホーム上除雪など協力をお願いすることはある。

21. 長岡車両センター構内の除雪はどのような対応するのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センター構内の除雪は、引き続き関係箇所に対応していく考えである。

・MR除雪や機関車による道付けなども検討しているが、場合によっては支社から応援に行くこともある。PRCの卓に付いている人には対応はできない。日勤など余力があれば対応してもらう。

22. 長岡車両センターが廃止になる事でこれまで冬期要員が行っていた業務について施策実施以降どのように対応を行っていくのか明らかにすること。

回答. 状況に応じて柔軟に対応していく考えである。

・在勤にするか、状況に応じて新潟車両センターから送るのかは、今後検討していくことになる。来冬期までには体制を決めていく考え。次期冬期に予熱を実施するかも含め検討中である。

23. 冬期、除雪機の給油は誰がするのか明らかにすること。

回答. 除雪機の給油については、関係箇所で行うこととなる。

・財産は長岡営業統括センター、管理はPRCとなるか長岡営業統括センター総務となるかは検討中。

24. 冬期のパン上げ、予熱などNTSの発注を誰がどのように行うのか明らかにすること。

回答. JR新潟鉄道サービス(株)への作業発注については、関係箇所が行うこととなる。

・パン上げ、予熱は新潟車両センターだが、それ以外は場合によって長岡営業統括センターが発注する。現在は冬期要員とNTSと分けて予熱しているが、来冬期は決まっていない。

【資材事務関係】

25. 事務用品や車両部品など誰がどこで手配をするのか明らかにすること。

回答. 事務用品や車両部品等は、関係箇所の手配することとなる。

・PRCに係わるものは長岡営業統括センターで手配する。検修に係わる用品は新潟車両センターで手配。交換用品などの数量・在庫状況についてリアルタイムでの把握は長岡については現在検討中、新津は在勤者が把握。新津で必要な事務用品などは新潟車両センター総務Gで発注し新津に配送する。

26. 長岡の車両部品を誰が管理するのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センターで担っている車両部品の管理については、新潟車両センターで行うこととなる。

27. 新津派出及び長岡における危険物保安監督者及び実務者は誰が行うのか明らかにすること。

回答. 危険物の管理等については、関係箇所に対応していくこととなる。

・貯蔵量と免税経由の把握はPRCもしくは長岡営業統括センターの危険物保安監督者やっていく。危険物保安監督者は長岡に常勤している人を指定しなければならない認識はある。給油立会者については検討中。

28. 産業廃棄物の管理責任者及び実務者は誰が行うのか明らかにすること。

回答. 長岡車両センターで担っている産業廃棄物の管理等については、新潟車両センターで行うこととなる。

・車両部品で発生したものは新潟車両センター。NTSが取り扱うことが多いので情報提供を受けて管理する。搬出の際は担当者が基本であるが代理を立てることも考えている。

【グループ会社関係】

29. 施策実施に伴うグループ会社に対する説明会を開催するのか明らかにすること。

回答. グループ会社に必要な情報は提供しているところである。

・NTSには勤労速報は出しているのので1日両日中には情報は伝えている。エルダー社員はタブレットでも閲覧できる。必要な情報提供はしている。

30. 施策実施以降、長岡車両センターNTSで作業検査時に不具合があった場合の誰が対応するのか明らかにすること。

回答. 作業検査時に車両不具合が発生した場合は、関係箇所に対応することとなる。

・運用に支障ある場合は新潟車両センターから派遣するが、支障ないものは新潟車両センター入区後に修繕対応する。NTSも車両知識を有している方が作業検査しているのので、重大か否かの情報提供はできる。PRCが修繕することはないが情報提供として写真を撮ることは、他の駅同様に考えられる。

31. 施策実施以降、長岡車両センターNTSとどのように作業発注を行うのか明らかにすること。

回答. JR新潟鉄道サービス(株)への作業発注については、関係箇所が行うこととなる。

・除雪などは契約の発注元が発注することになる。新潟車両センターの除雪は、NTS新潟テクノ営業所と契約し実施している、長岡車両センターは各自の駐車スペース確保のために各自で除雪している。契約されている訳ではない。必要な作業は、新潟車両センターもしくは長岡営業統括センターから発注する

32. 長岡車両センター廃止後に長岡で臨時作業が発生する際、長岡のNTSへ誰が作業の発注を行うのか明らかにすること。

回答. JR新潟鉄道サービス(株)への作業発注については、関係箇所が行うこととなる。

・作業検査項目に含まれている制輪子交換などは実施できるがパン取替は契約外となるので実施できない。新潟車両センターでは手配券でNTSに作業していただいているのので、同様に長岡でも対応できる。

東日本ユニオンは実施ありきの施策を許さない！労働組合に加入しよう！